

# 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会

## 第1回将来委員会議事次第

日時：平成27年7月24日（金）14:00～17:00

場所：沖縄県庁14階会議室

### 1 開 会

### 2 議 事

(1) 将来委員会の設立経緯について（資料1）

(2) 協議会のあり方・運営方法について

(3) 協議会の問題点・課題等について

(4) その他

### 3 閉 会

## 第15回 理事会

### 【平成26年度事業計画（案）について】

- ・活動を通して協議会会員にメリットがあることが見えるようにしたい。将来的に協議会が持続的に運営できるようにするためにも、会員増につながる活動を盛り込むようにしてほしい。
- ・交流会の実施について追加してほしい。なお、交流会のあり方については随時検討していく。総会の延長線上で交流会を実施するか、また別の案ですすめるか検討する。
- ・交流会にて野外活動のようなものがあるとよいと思う。総会とタイアップしてできないか。
- ・シンポジウムよりも人集めできるイベントがあった方がよい。移植イベントなど始めてもよいかと思う。
- ・年間計画もそうだが、協議会のアジェンダみたいなものを考えてもよいのではないか。例えば10年後に協議会がどのようになりたいか考えて、どういうふうな活動が必要かを検討する方がよいと思う。また、寄付金をどう活用しているのかを、丁寧に公表することで寄付はもっと集まると思う。
- ・将来にわたって協議会の果たすべき目標（将来像）を意識的に話し合う委員会をつくることを提案。趣旨に則って達成すべき、短期的、中長期的な目標を掲げられたらよいと思う。
- ・協議会は個々の協議会のメンバーがいる。それぞれのグループがそれぞれに活動しているので、その邪魔になってはいけない。協議会は、協議会だからこそできるという活動は何なのかということを検討することが大切。他のグループができないこと、協議会しかできないことが何かを洗い出し検討することが必要。例えば、個々のグループが計画しているイベントなどがある場合は、協議会の事務局に連絡があれば、事務局がそれを発信できるような仕組みなど。
- ・協議会の将来的な目標や、やるべき活動を検討するため、将来委員会を設置して議論する場を設けてもよいと思う。

### 【平成26年度収支予算（案）】

- ・サウジアラムコ助成事業の覚書に「サンゴ礁保全に資する活動を実施する」とあるので、アラムコ助成事業の予算を活用して、協議会が主体となったイベントを実施してもよいのではないか。
- ・予算が伴うものができないのでは、企画を出しても実施ができないという流れを断ち切るべき。思い切って企画を提案して実施できるような予算を計上しておいてもよいのではないか。
- ・具体的な使途がない予備費を計上するのは良くない。
- ・将来委員会は保全推進するための協議の場とし、分野毎に関係者毎に委員会としてわかれてその問題について議論していくのはよいと思う。
- ・保全現場に近い活動への予算の使い方をした方が効果的と考える。
- ・協議会で長期展望をもって、短期で取り組む課題を計画して、具体的な計画をたてて予算を確保してやった方がうまくいく。そのため、話し合いをしっかりとって次年度に向けた検討をすべき。
- ・各委員会が活動するためにある程度の経費が必要。

## 第16回 理事会

### 【将来委員会について】

- ・総会では、協議会の将来を考える将来委員会の設置を提案する。将来委員会のあり方について考え方を議論する必要がある。
- ・会員のメリットになることが何か明確にする必要がある。
- ・どういうことを目指している組織なのか明確にしておく必要がある。
- ・協議会の設立趣意書に照らし合わせると、交流会が最も重要。交流会で会員が活発にアピールできる機会を設けた方が良い。
- ・サンゴ礁保全に関する相談窓口となればよいと思う。

## 第7回総会

### 【第7号議案 将来委員会の設置について】

2008年に沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が設立され、これまでにサウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金助成事業などにより会員のサンゴ礁保全への支援を実施してきたところだが、基本理念に基づく協議会の取り組みをさらに前進させるため、将来委員会の設置が提案され、将来委員会の設置について承認が得られた。

将来委員会は協議会の最大の目的は会員の相互の情報交換、それぞれの保全活動の活性化、この部分がなかなか動いていないため、将来を見据えた形で議論する場をもつことが目的。

なお、将来委員会の設置に関して以下の意見があった。

- ・開催時期やどういう人が参加するかなどは決まっているのか。  
→組織ができた段階で参加者のスケジュールを考慮して開催時期などを決める。運営委員会と重複するところもあるが、現在の各委員会の委員長には委員会に入ってほしい。また、外部の意見も取り込む必要があれば会員以外の方からのヒアリングなども検討する。具体的な運営に関しては事務局からアナウンスする。
- ・委員会のメンバーは理事である必要があるのか？  
→理事である必要はない。委員長は理事が務める。
- ・なぜ、こういう委員会が必要なのか理由や必要となった事例を聞かせてほしい。  
→この協議会は意見交換、情報交換の場を提供することで設立されている。ただ、協議会に参加していない会員が多い状況であり、情報交換の場として機能していない。恒常的に協議会を運営していくには、会員を増やしていく必要がある。そのため、会員サービスの向上などの戦略をどう取り得るのか考え、長期的な視点で協議会のあり方を検討していきたい。  
例えば、寄付する側のメリットも考えて法人化も視野に入れて具体的なアクションについて検討したい。

### 【8. 第8号議案 その他】

協議会の今後のあり方について総会参加者と意見交換を実施したので、その内容等を以下にまとめる。

- ・協議会の設立趣意書によると、情報交換の場の提供など、協議会が何をすべきかというアクションプランを立てにくいと思う。また、会員のメリットがわかりにくい。アラムコ助成は一

定のインパクトがあるが、会員のメリットを示す必要があるのではないか。そのためには、サンゴ礁保全の現状がどのような立ち位置にきており何が必要なのか整理する必要がある。寄付行為を受けやすくするために法人化を検討することも会員のメリットにつながる。

- ・現在の協議会の活動が助成事業やサンゴ礁ウィークなどであるが、総会などを開いた際にはあまり人が集まらない。今回の総会に参加した会員が感じているメリットを会場から聞いてみたい。
  - 学生の立場では、学生が応募しやすい研究助成金（30万円程度）をつくり、成果を発表する場があれば、会員が情報を得ることができ、頑張っている若い人たちが興味をもってもらえると思う。→アラムコ助成で実現可能なので、ぜひやっていただきたい。
  - 宮古での活動が活発な部分とそうでない部分がある。沖縄本島の活動を参考にして、宮古の活動を活性化させたいと考えている。情報交換の場を必要としている。
  - 八重山ではサンゴ礁の講習会をやっている。1つテーマを決めて議論してグループごとに発表する方法。サンゴ礁ウィークに参加した団体の交流集会をしてみてもどうか。そうすることで情報があつまり良くなると思う。もっと遊びを入れてほしい。
  - サンゴ礁ウィークの取組みの合間に総会を入れてはどうか。そうすることで会員の参加も多くなると思う。
  - 夏場にサンゴ礁ウィークをやってもいいと思う。3月は寒いし、海が荒れるので活動しにくい。サンゴ礁ウィークで1日に複数の活動が重なると1つしか参加できない。サンゴ礁ウィークがどのような成果があって、地域からどんな意見があったか興味がある。
- ・将来委員会では、会員が何をしたいかということ意見を集約してほしい。
- ・将来、協議会がどう動いていくかということを考える将来委員会は、人とお金をどうするかという非常に重要な委員会になると思う。
- ・協議会に期待することではなく、協議会でやりたいことがあってもよいのではないか。後援は多くなっているが、共催や協賛が増えてくればいいと思う。

## 第17回 理事会

### 【（5）将来委員会について（資料5）】

- ・委員長に八重山サンゴ礁保全協議会の吉田稔理事が任命された。
- ・将来委員会は法人化を含めて検討する。

## 第18回 理事会

### 【（1）将来委員会について（資料1）】

- ・事務局より将来委員会の委員の提案があり、提案された委員について承認された※。また、企画委員長を委員に追加したいと提案があった。提案された委員は以下のとおり。
  - 委員長：吉田稔
  - 委員：中野義勝、西平守孝、花井正光、藤田喜久、佐藤崇範、謝名堂聡、権田雅之
- ・今回決まった将来委員会の委員に若手がない。協議会の将来を考える上で、若手からの意見は必要だと思う。委員は後で追加できるのか？
  - 委員会の細則によるが、追加はできる※。将来委員会の目標等が決まった後で、若手の会員に参加してもらえるように検討してはどうか。

- ・将来委員会のメーリングリストを作成する。

※事務局補足

- ・規約上では、委員会の委員長は会長が任命する必要がありますが、理事会での承認は必要ありません。
- ・規約上では、委員会の構成は会員の有志によるので、協議会会員であれば、だれでも委員になれます。また、会員でなくとも、オブザーバーとして参加できます。

委員名簿

役 職	氏 名	所 属
委員長	吉田 稔	八重山サンゴ礁保全協議会
委 員	中野 義勝	
	西平守孝	
	花井正光	NPO 法人沖縄エコツーリズム推進協議会
	新村一広	宮古島マリンリゾート協同組合
	謝名堂聡	沖縄県自然保護・緑化推進課
	藤田喜久	
	権田雅之	WWF ジャパン
	佐藤崇範	